

2019年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月13日

上場会社名 株式会社コロプラ 上場取引所 東
 コード番号 3668 URL https://colopl.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 馬場 功淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 原井 義昭 TEL 03(6721)7770
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の連結業績（2018年10月1日～2019年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	27,579	△16.6	493	△90.2	△16	—	△149	—
2018年9月期第3四半期	33,050	△13.5	5,057	△48.6	4,600	△54.1	3,053	△52.6

(注) 包括利益 2019年9月期第3四半期 △274百万円 (ー%) 2018年9月期第3四半期 3,104百万円 (△54.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第3四半期	△1.17	—
2018年9月期第3四半期	24.11	23.81

(注) 2019年9月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第3四半期	73,342	68,221	93.0
2018年9月期	77,244	70,625	91.4

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 68,220百万円 2018年9月期 70,625百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	17.00	17.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2. 2018年9月期期末配当金の内訳 普通配当12円00銭 記念配当5円00銭

3. 2019年9月期の連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

当社グループを取り巻く事業環境は短期的な変化が激しいことから、当社グループの業績の見通しについては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、業績予想の開示をいたしません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）コロプラネクスト上場株1号ファンド投資事業組合
なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、株式会社オーバークロック、コロプラネクスト3号ファンド投資事業組合、コロプラネクスト5号ファンド投資事業組合、コロプラネクスト6号ファンド投資事業組合及びコロプラネクスト7号ファンド投資事業組合は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
（注）詳細は、添付資料P.6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期3Q	129,284,000株	2018年9月期	128,882,000株
② 期末自己株式数	2019年9月期3Q	1,778,039株	2018年9月期	1,777,689株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期3Q	127,374,613株	2018年9月期3Q	126,651,583株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用情勢の改善や個人消費の持ち直しなどにより緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動等の影響により先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの業界におきましては、「ファミ通ゲーム白書2019」によると、国内ゲームアプリ市場は、2018年に前年比10.2%増の1兆1,660億円まで成長いたしました。また、2020年には1兆3,000億円に達し、安定成長を続けることが予想されております。また、The Goldman Sachs Group, Inc.の調査によると、VR(仮想現実:Virtual Reality)のハードウェア及びソフトウェアの世界市場規模は、2025年までに590億ドルに達すると予測されております。

このような環境の中、当社グループは、スマートフォン向けの既存ゲームについてはユーザとのエンゲージメントを高めることを意識し、新規ゲームについてはその投入に向けて注力してまいりました。また、VR端末向けコンテンツへの注力も進めており、様々な開発実験を行ってまいりました。

売上の多くを占めるスマートフォン向けゲームでは、当第3四半期連結累計期間において、台湾・香港・マカオ向けに「アリス・ギア・アイギス」「ディズニー ツムツムランド」、国内向けに「バクレツモンスター」「最果てのパベル」の配信を開始いたしました。「クイズRPG魔法使いと黒猫のウィズ」や「白猫プロジェクト」といった既存ゲームにおいては、TVCMやオンライン動画プラットフォームのプロモーションに加え、グッズの製作、リアルイベント等を実施することでユーザとのエンゲージメントを高めるサービス運用をしてまいりました。また、「アリス・ギア・アイギス」PC版の配信を開始し、スマートフォン以外のデバイスへの展開を進めました。

VR端末向けコンテンツでは、Oculus RiftおよびHTC Vive向けに「TITAN SLAYER II」パッケージ版の配信を開始いたしました。

また、全社的な取り組みとして創業10周年を記念した「コロブラフェス2018」を開催しました。「クイズRPG魔法使いと黒猫のウィズ」や「白猫プロジェクト」といった人気タイトルをはじめ、創業時からのサービスである「コロニーな生活」や最新のVRゲームなど、さまざまなタイトルのステージやブースを展開し、たくさんの方々にご来場いただきました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,579百万円(前年同四半期比16.6%減)、営業利益は493百万円(同90.2%減)、経常損失は16百万円(前年同四半期は4,600百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は149百万円(前年同四半期は3,053百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

なお、当社グループにおける報告セグメントはモバイルサービス事業のみであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は63,397百万円(前連結会計年度末比4,395百万円減)となりました。これは主に、現金及び預金が減少したことによるものであります。

また、固定資産は9,945百万円(同494百万円増)となりました。これは主に、投資その他の資産が増加したことによるものであります。

以上の結果、総資産は73,342百万円(同3,901百万円減)となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は4,635百万円(同1,461百万円減)となりました。これは主に、未払金が減少したことによるものであります。

また、固定負債は486百万円(同36百万円減)となりました。これは主に、資産除去債務が減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は5,121百万円(同1,497百万円減)となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は68,221百万円(同2,403百万円減)となりました。これは主に、配当金の支払いに伴い利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境は短期的な変化が激しいことから、当社グループの業績の見通しについては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、業績予想の開示はいたしません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,400	55,985
売掛金	5,858	4,395
たな卸資産	386	253
その他	1,172	2,800
貸倒引当金	△26	△38
流動資産合計	67,792	63,397
固定資産		
有形固定資産	1,882	1,776
無形固定資産		
のれん	296	-
その他	34	44
無形固定資産合計	331	44
投資その他の資産		
その他	7,241	8,124
貸倒引当金	△4	-
投資その他の資産合計	7,237	8,124
固定資産合計	9,451	9,945
資産合計	77,244	73,342
負債の部		
流動負債		
未払金	4,282	2,539
未払法人税等	463	79
その他	1,350	2,016
流動負債合計	6,096	4,635
固定負債		
資産除去債務	515	481
その他	6	4
固定負債合計	522	486
負債合計	6,619	5,121
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491	6,510
資本剰余金	6,250	6,269
利益剰余金	62,473	60,156
自己株式	△4,644	△4,644
株主資本合計	70,571	68,291
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53	△71
その他の包括利益累計額合計	53	△71
非支配株主持分	-	0
純資産合計	70,625	68,221
負債純資産合計	77,244	73,342

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
売上高	33,050	27,579
売上原価	20,563	19,758
売上総利益	12,486	7,820
販売費及び一般管理費	7,428	7,327
営業利益	5,057	493
営業外収益		
受取利息	8	37
有価証券利息	13	11
投資有価証券売却益	159	36
雑収入	88	76
営業外収益合計	270	161
営業外費用		
投資有価証券評価損	600	381
為替差損	23	168
雑損失	103	121
営業外費用合計	727	671
経常利益又は経常損失(△)	4,600	△16
特別利益		
関係会社株式売却益	100	-
特別利益合計	100	-
特別損失		
関係会社株式評価損	150	-
特別損失合計	150	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	4,550	△16
法人税等	1,497	132
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,053	△149
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,053	△149

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,053	△149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51	△124
その他の包括利益合計	51	△124
四半期包括利益	3,104	△274
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,104	△274
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

株式会社オーパークロック、コロプラネクスト3号ファンド投資事業組合、コロプラネクスト5号ファンド投資事業組合、コロプラネクスト6号ファンド投資事業組合、コロプラネクスト7号ファンド投資事業組合及びコロプラネクスト上場株1号ファンド投資事業組合は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、コロプラネクスト上場株1号ファンド投資事業組合は当社の特定子会社に該当しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報)

当社グループにおける報告セグメントはモバイルサービス事業のみであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。